

県生協連 NEWS

●発行：徳島県生活協同組合連合会

●発行日：2021年1月11日（No.25）

●住所：徳島県板野郡北島町中村字東堤の内30-3

●TEL：088-698-0505

●HP：<http://tokushima.kenren-coop.jp/>



「消費者庁審議官日下部氏」 「とくしま生協理事長大久保氏」 「立命館大学准教授松田氏」

令和2年7月消費者庁新未来創造戦略本部が徳島県庁10階に設置され、これを機に「新型コロナウイルス感染拡大の影響による消費者行動の変化等に関する研究」を行うことになりました。

このプロジェクトでは、非常時における消費者の意識や消費者行動がどうなっているのかを解明することと、消費者庁としては、より効果的・効率的な情報発信、消費者教育・啓発活動の基礎資料を得ることを目的にしております。

とくしま生協は令和3年1月下旬から、組合員のみなさまにアンケートとモニターを募り、このプロジェクトへ積極的に協力していくことで準備を進めています。

目次

- P1 新年のごあいさつ（徳島県生活協同組合連合会：会長 多田道代）
- P2 会員報告 徳島県学校生活協同組合
- P3 会員報告 徳島県共済生活協同組合
- P4 会員報告 徳島健康生活協同組合
- P5 会員報告 生活協同組合コープ自然派しこく
- P6 会員報告 徳島県職員生活協同組合
- P7 会員報告 徳島大学生生活協同組合
- P8 会員報告 生活協同組合とくしま生協



謹んで新春のお慶びを申し上げます

徳島県生活協同組合連合会 会長 多田道代

新年あけましておめでとうございます。2021年の幕開けです。みな様とともに、新年を迎えられますことを大変うれしく思います。会員生協のみな様には、日々お忙しい中連合会の活動に積極的にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

昨年は、年明け1月に新型コロナウイルス感染者発生ニュースを聞いてから、ほぼ毎日私たちの生活は侵略され、自粛を余儀なくされ、まさに生活は一変してしまいました。21世紀にこんな日常が来ると誰が予測できたでしょう。このウイルスは瞬く間に全世界に広がり、いつ収束を迎えるかもわからない脅威のウイルスでした。密を避け、人とのソーシャルディスタンスを保つということは、ウイルスに打ち勝つためには有効でも、果たして、人々の生活、幸せにとってはどうなのか、私たちが一番大切にしてきた人との繋がりや協同、手を携えて進むという、言わば行動、活動の原点とも言える部分がソーシャルディスタンスという名のもとに置き去りにされている、せざるを得ない現実をどう捉えればいいのか・・・ともすれば、ソーシャルディスタンスを他者の苦しみに背を向ける自己防衛の壁にしていけないだろうか・・・

私たちは、SDGsの17の目標を掲げ、持続可能な社会の実現のため様々な取り組みを始めています。with コロナを生きるための新しい生活様式も始まりました。オンライン、Web会議が広く開催されるようになり、様々なことの変革を求められ、社会も変わっていくでしょう。まだまだ始まりなのかも知れません。でも、自分のことより先に人々のことを考える、人間のことであり先に自然のあり様に思いを寄せる、そういう一人ひとりの思いこそが地域社会をつくり、助け合いと協同の原動力になると私は思います。ほんの少しでも明るい方へ踏み出せるよう、みな様と共に乗り越えたいです。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



「おうちでげんきっず体操」YouTube 配信をスタートしました。

○徳島県学校生活協同組合

〒779-3233 名西郡石井町石井字石井 1845-1

TEL 088-679-1357 FAX 088-675-1315

ホームページ <http://www.tokugaku.jp>

- 理事長 木津正憲
- 常務理事 野々村拓也
- 組合員数 8,802 人
- 事業高 8,900 万円

～時代の変化に対応した改革～

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、日本経済はかつてないほどの大きな打撃を受けた年でした。本来なら、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中から多くの人が日本を訪れ、その経済効果は約30兆円を越えるとも言われていました。1年延期が決まったとはいえ、予断を許さない状況が続いていることは間違いありません。

私たちは、このコロナ禍において、ソーシャルディスタンスなどの「新しい生活様式」を実践・定着させ、今までの考え方・価値観を大きく変えてきました。また、テレワークやWEB会議などを積極的に導入することで、効率的な働き方が実現できるようになりました。これからの職場は、主体的に仕事に取り組み、成果をきちんと出し、会社や社会への貢献ができる人間、自ら課題を発見し解決する能力を備えた人間、経営マインドを持って企画立案できる人間などがきちんと評価される時代になることでしょう。さらに、家庭では、男女で仕事と家事の両立をするのが当たり前になり、男性、女性の枠にとらわれずに働ける者が働き、家事はお互いに工夫して空いている者がこなすというライフスタイルが主流になってくることでしょう。これによって、女性の社会進出が進み、変革の時代を乗り越えていける、力のある者だけが活躍する社会が実現していくことでしょう。

徳島県学校生協でも、年度末・年度初めの学校休校により、様々な場面において大きな影響がありました。ただ、このピンチをチャンスと捉え、従来から指摘されてきた課題を解決するため、積極的に改善に取り組み、改革を進めています。幸い、一昨年に「学校生協マイページ」を導入したことにより、郵送費・印刷費等のコスト削減や業務の効率化を推進し、組合員の利便性やサービス向上に繋げてきました。また、新たな取り組みとして「コスモスベリーズ」との業務提携を結び、家電製品をお得な価格でご購入頂けるシステムを立ち上げ、すでにご利用頂いた組合員様からは好評を得ております。今後は、マイページを活用した物品販売、クーポン提供等により、組合員様と学校生協が「ウィンウィン」の関係が構築できるよう考えていきます。



【ランニング講習会】



【イチゴ狩り】

また、組合員を支援するための福利厚生事業として、「ランニング講習会」「イチゴ狩り」「徳島ヴォルティス・チケットプレゼント」などを実施しました。昨年は、全都道府県に緊急事態宣言が発出され、不要不急の外出自粛、都道府県をまたいで移動制限、学校の臨時休校、イベントの中止など、組合員の皆様が楽しみにしていたことがたくさん奪われてしまいました。そこで、組合員の皆様に少しでも元気になってもらいたい、笑顔になってもらいたいという気持ちで事業を実施し、参加者からは「また来年もやってね」という声をたくさん頂きました。今後も組合員の皆様の要望に応えるような事業の展開を進めていきます。

学校現場では、業務量の見直し等により勤務時間を軽減する「教職員の働き方改革」が、国や教育委員会により積極的に進められてきています。来年度からは、変形労働制を導入することで勤務時間を年単位で調整する動きが出てきているようです。ただ、このことによって、教職員の勤務時間の問題が全て解決されるのではありません。学校生協では、組合員の皆様のストレス解消、元気回復、勤労意欲の向上等に貢献できるような事業を積極的に挑戦していきます。また、組合員の皆様にとって満足していただける組織であり続けるため、新たな事業等に積極的に取り組み、経営改善に努めて、今後も新しい時代の変化に対応した改革を進めていきたいと考えています。

2021年がすべての組合員様にとって良い年になることを祈念いたします。



徳島県学校生活協同組合理事長 木津正憲

○徳島県共済生活協同組合

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1

TEL 088-676-3593 FAX 088-625-2131

ホームページ <https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/tokushima.html>

●理事長 藤岡一雄

●専務理事 豊田浩

●組合員 88,775人

●事業高 1.51億円

新年、明けましておめでとうございます。

徳島県生協連加盟の各役職員、組合員の皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また日頃のご支援に感謝いたします。

徳島県共済生協・こくみん共済coop〈全労済〉は創立以来、共済の普及と社会課題の解決に取り組み「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を進めてきました。

1965年の火災共済事業の開始以降、95年の阪神淡路大震災では、被災者生活再建支援法の成立に向けた国民運動や自然災害共済の制度実施、防災・減災の啓発などに取り組みました。2011年の東日本大震災では、無保障者をなくす「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を進めてきました。その後も16年の熊本地震や相次ぐ台風被害に対しても総力を挙げて取り組んでいます。

これらの取り組みは、「誰一人取り残さない社会づくり」をめざすSDGsに通じるものです。SDGsの17目標には、飢餓や貧困をなくす、安全な水とトイレ、質の高い教育、健康と福祉などのテーマが盛り込まれていますが、目標13「気候変動」はとくに関心が高くなっています。人間社会による温室効果ガス排出が原因というのが世界の認識となっていますが、気候変動は気温上昇だけでなく、異常気象による大規模自然災害を各地でもたらしています。例えば18

年の台風 21 号や 19 年の台風 15 号 19 号では、それぞれ 1 兆円を超える損害金が発生しました。そして、世界が何も対策をとらなければ、気温は 2100 年までに 4.8℃上昇すると予測され、これにつれ自然災害の猛威も増します。

私たちは、災害が発生した後の保障という役割だけでなく、災害を未然に防ぐという「防災・減災」が重要なことから、もしもの保障とその前の「被害の抑制」、後の「復旧・復興支援、生活再建」の備えを強めていきます。また、発生が予測される「南海トラフ地震」も含めた自然災害は個人の準備ではとても対処できない規模になっていきます。そもそも「どこに住むべきか」「被害を軽減するにはどんな街づくりが必要か」という地域や社会全体での「防災・減災」活動が必要ではないでしょうか。

今後も、少子高齢化や格差の拡大、大規模自然災害の増加、新型コロナウイルス感染拡大など、厳しさを増す自然環境や社会環境の課題を長期的な視点で考え、「たすけあいの輪を結ぶ」という私たちの役割と期待を受け止め、SDGs の達成に貢献したいと考えています。

本年も引き続き、皆様のご支援をいただけるようお願いします。



【JRTゴジカル出演】

徳島県共済生活協同組合理事長 藤岡一雄
(こくみん共済 coop 〈全労済〉徳島)

○徳島健康生活協同組合

〒770-8547 徳島市下助任町4丁目9

TEL 088-654-8363 FAX 088-625-0058

ホームページ <http://www2.tcn.ne.jp/~hcoopt/>

●理事長 児嶋誠一

●専務理事 吉野才治

●組合員 44,581 人

●事業高 43.3 億円

新年あけましておめでとうございます。

年末も差し迫った 12 月 21 日、長年にわたる願いだった徳島健生病院の新病院が開院しました。新たな建物での診療・療養が始まり、これからも引き続き地域の方々や組合員の「いのち」と「健康」を守り続ける拠点として、活動して行ければと思います。

工事期間中は近隣住民のみなさま、健生病院・健生歯科を御利用のみなさまには多大なご迷惑をおかけしました。書面を通じてお詫びするとともに、旧西館の解体や旧東館（現別館）の改修工事など引き続き一連の工事が続きますこと、何卒ご理解の上、お許しをお願い致します。

新しい健生病院では、一部別館（旧東館）に医療療養型病棟の機能を残しつつ、新病院では広く快適になった病床で、入院が必要な急病の治療や内科疾患、最新の手術室での外科、整形外科、眼科の手術を行います。一方で、専門特化した治療（骨粗鬆症外来や便秘外来など）とともに、療養やリハビリにも力を入れ、安心して療養できるような機能も果たしていきたいと考えております。

脳卒中や骨折などで手厚いリハビリが必要な方には、パワーアップした回復期リハビリ病棟で集中的なリハビリを行います。さらに、長期の療養が必要な方には、新たに別館（旧東館）に療養型ベッドも備え、広く快適な環境での療養を行えるようにします。



【新病院】

このような多機能型の病院になることで、組合員のみなさま、地域住民のみなさまの命と健康を守り、切れ目のない医療・介護の提供をより強化することをめざします。

また、病院機能とともに、職員の医療・福祉・介護活動や、地域での組合員さんの保健予防活動・まちづくりの活動をとおして、「地域になくてはならない健康生協」としての存在を、ますます見えるものにしていかなければいけません。

安心して住み続けられるまちづくり、地域包括ケアシステムづくりのために、生協組織の強みを生かし、県・市・地域包括支援センター・社会福祉協議会・町内会などとの協同をいっそう強めていきます。

本年もよろしくお願いいたします。



徳島健康生活協同組合理事長 児嶋誠一

○生活協同組合コープ自然派しこく

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目43-3
TEL 088-679-6781 FAX 088-664-8820
ホームページ <http://www.shizenha.ne.jp>

- 理事長 岡田ゆかり
- 専務理事 川合厚平
- 組合員数 15,174人
- 事業高 13.9億円（徳島センター内）

新年あけましておめでとうございます。

2020年度はコロナ過の中、事業面でも組合員活動でも新たな取り組みを模索する年となりました。Web環境を利用した機関会議運営や組合員拡大など、リアル開催やWeb開催、リアル＆Webと日々新しい挑戦でした。

新たな発見もあり、これからの生協運営及び組合員活動のあり方など、組合員や社会のニーズにいかに対応していくことができるかを考えるきっかけにもなりました。

コープ自然派しこくは、「誰もが有機農産物を食べられる社会」をめざし「国産・無添加・オーガニック」を掲げる活動に取り組んでいます。



【親子で稲刈りと田んぼの生きものを調べてみよう♪】

2020年8月30日には「親子で稲刈りと田んぼの生きものを調べてみよう♪」と題し小松島市のツルをよぶお米（無農薬米）の田んぼで、

子どもたちと一緒に稲刈りをしました。この地域では環境保全型農業を高めようとバイオトープ米（環境創造米）の取り組みを始めコウノトリの郷づくりを進めています。

コープ自然派しこくは、私たちが安心して暮らせる平和な社会をめざして、2021 年も活動していきます。

コープ自然派理事長 岡田ゆかり

○徳島県職員生活協同組合

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1（県庁内）

TEL 088-621-3061 FAX 088-624-0170

- 組合長 板東安彦
- 副組合長兼常務理事 河崎敏之
- 組合員数 3,902 人
- 事業高 1.25 億円

新年あけましてあめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、県職員生協の事業運営におきましても、感染の拡大防止の取り組みや組合員の消費行動の変化への対応が欠かせなくなるなど、忘れがたい、大変な一年となりました。

特に食堂事業では、ソーシャルディスタンスの確保のため、約180席の座席数を半数に削減しての営業となり、組合員に利用時間の分散をお願いするなど、営業収支の悪化を最小限に食い止めることに苦慮いたしました。

この状況が一日でも早く好転することをただひたすらに願うばかりです。

さて、皆様の中には、この県庁11階にある食堂（通称：県庁食堂）を利用された方もおられるかと存じます。消費生活協同組合法第12条第3項に「組合は、組合員以外の者にその事

業を利用させることができない。」と定められておりますが、ただし書きにより同項第1号から第5号に掲げる場合に該当すれば、員外利用が認められることがございます。

県職員生協は、職域による組合として、昭和24年に発足し、協同互助の精神に基づき、組合員の生活の文化的経済的向上を図ることを目的としておりますが、員外利用の許可を得て、

（1）組合員向けのサービスの一部を組合員でない県職員にも提供すること（2）職務その他これに準ずる理由により当該職域を訪問した者に物品を販売すること（3）職務その他これに準ずる理由により当該職域を訪問した者に組合が営む食堂を利用させることができます。

そこで、昨年、県職員生協では、首都圏や京阪神など都市部に向けた出荷が低調であったブランド農産物やブランド水産物など地場食材の地産地消の拡大に向けて、また、組合員の満足を得て利用拡大を図るためにも、組合員や組合員以外の県職員及び職務その他で職域を訪れる者を対象に、様々なイベントを企画し、スイートコーン、鳴門わかめ、菌床椎茸、鳴門金時、阿波尾鶏、伊勢海老や実生柚子など、地場食材を使った料理を紹介したところ、多くの方に御好評をいただきました。



【伊勢海老レッドカレー（牟岐産食材フェア）】

県職員生協は、地域社会の一員であり、地域社会の発展及びこれとの調和についても十分に配慮しながら事業運営にあたりたいと考えておりますので、皆様方には新年も変わらぬ御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

徳島県職員生活協同組合副組合長兼常務理事
河崎敏之

○徳島大学生生活協同組合

〒770-0814 徳島市南常三島1丁目1

TEL 088-652-1073 FAX 088-626-5811

ホームページ <https://ha1.seikyoku.ne.jp/home/tokushima-shop1/>

- 理事長 田中秀治
- 専務理事 神田斉宜
- 組合員 9,740人
- 事業高 12.5億円

あけましておめでとうございます。

徳島大学生協は、学生・教職員の福利厚生を支える組織として、食堂運営や書籍、パソコンの提供など、様々な商品やサービスを提供しています。近年では、学生の学びや成長に貢献するため、各種講座や体験事業など、卒業後の豊かな人生に貢献する事業も展開しております。

2020年は新型コロナウイルスの影響により、入学式などの各種行事が次々と中止となり、大学の授業もままならない時期がありました。新入生は友達との出会いの機会を失い、ストレスを抱えた学生の急増が全国で報告されています。生協も閉店や縮小を余儀なくされたほか、組合員同士の交流の機会を奪われるなど、生協の諸活動は大きな打撃を受けています。生協の利用者数は前年の半分程度となり、経営の危機を迎えています。

10月には一時学生の登校が禁止され、生協は営業できなくなりましたが、「早く再開して」と学生や保護者から、問合せや要望をいただきました。これらの経験は、改めて私たちが本当に多くの学生たちの生活を支えていること、その責任の大きさや期待の大きさを実感する機会となりました。

今私たちは、改めて学生・教職員の命と暮らしを守る生協として、食を中心とした事業を止めることなく、これまで以上に安心・安全を提供したいと決意を新たにしています。食堂ではマスク着用、食事前の手洗いや消毒の協力をお願いし、ビニールカーテンやテーブルパーテーションを設置しています。3密を避け安心な食事環境を保障するために、弁当の製造を増やし、秋には店舗を改造して焼きたてのベーカリーショップをオープンさせました。さらに今後は注文を受け学外へ弁当を配達するサービスを模索しています。新型コロナ対策の中で、ある意味これまで以上に商品やサービスの幅が広がり、新たな需要の掘り起こしにもつながってきています。また学生同士の交流や情報交換のため、インターネットを活用したオンライン交流会のほか、SNSを通じ自炊メニューやおすすめ本の紹介など、生協の学生委員も自ら工夫しながら活動を継続しています。



【ベーカリーショップ】



【キララ テーブルパーテーション】

2021年も引き続き厳しい環境になると思いますが、今こそ生活協同組合の存在が問われる時でもあります。先人たちの設立の想いを受け継ぎ、生協の火を灯し続けられるようこれまで以上に努力をしてみたいと思います。引き続き皆様方のご支援のほどよろしくお願いいたします。

今年一年がすばらしい年になりますよう、ともに頑張っていきましょう！

徳島大学生協専務理事 神田斉宜

○生活協同組合とくしま生協

〒771-0289 北島町中村字東堤の内30-3
TEL 088-698-0505 FAX 088-698-8872
ホームページ <http://www.tokushimaseikyou.or.jp>

- 理事長 大久保秀幸
- 専務理事 堺谷信行
- 組合員数 116,934 人
- 事業高 103.1 億円

人と人との「つながり」を大切に、暮らしに役立ち・喜んでいただける“とくしま生協”に！

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、1月末から急激に感染が広がった「新型コロナウイルス」によって、組合員さんをはじめ、消費者のくらしや働き方が大きく変化した一年となりました。4月には日本ではじめて緊急事態宣言が発出されました。

解除後はいったん収束に向かうのではと思いましたが、その後8月には第2波、11月には第3波となり、新型コロナウイルスの感染拡大は収束に向かうことなく、未だに多くの感染者がでて発症者数も増加し、中には重症化し亡くなる方も増えています。

この感染の広がりが組合員さんのくらしに大きく影響し、「外に出るのを控えたい」「できる限り人混みは避けたい」「買い物に行くのを控えたい」などの理由から、全国の生協で前年よりも大きく利用が伸びました。

一方で、利用が大きく伸びたことで、お届けできない商品も多数発生するなど、組合員さんには大変な迷惑をお掛けすることとなりました。申し訳ありませんでした。

今後は、組合員さんから注文いただいた商品を実際にお届けするとともに、店舗も組合員さんが安心して利用できるよう衛生管理など、日々のところで強化していきたいと思っています。

さて、今年の干支は、「辛丑（かのとうし）」です。十干と十二支は、それぞれ植物の一生を表しています。「辛」は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」。「丑」は「種から芽が出ようとする状態」で、それぞれ「新しくなろうとしている」「芽を出そうとしている」というような意味があるそうです。これからっていう感じが、新しい出発の兆しを感じます。植物の一生を考えれば、枯れて次の種が生まれる。この流れは直線なのではなくて円です。終わると同時に始まる。だから終わりと始まりは

隣同士であり、これはちょうど転換期ということになります。それと「新しい」「始める」があります。同時に「つらい」「からい」があり、2021年はまさに転換期となると思います。転換期だからこそ、下を向かず上に向かって挑戦する！上に手を伸ばして、何かをつかもうとする！年にしていきたいと思います。

その中で、2021年は干支にあやかって“新しい出発の年”として、これまでの優れた経験や実践は継続しつつ、コロナ禍で変化したくらしに合わせた実践にも磨きを掛けていく年にしていきたいと思います。

新しい年のスタートにあたって、5つのことを申し上げ、新年の挨拶に代えさせていただきます。

一点目は、組合員さんの声を事業や運営により活かし広げていくことです。生協は、地域のお母さんたちが、よりよいくらしを願い、必要なものを手に入れるために出資しつづけた「買うための組織」です。今まで以上に組合員さんの声や想いを事業や運営に活かしていきたいと思います。

二点目は、あらためて、買う立場に立った事業を最も大切なこととして、いつも生協を利用してくれる組合員さんが増え、とくしま生協の商品やサービスを通して、くらしに役立ち・喜んでもらえることをさらに強化していく年にしていきたいと思います。

三点目は、とくしま生協で働くすべての役員や職員が、理念や役職員の行動指針に沿った実践をすすめ、一人ひとりの「できていること」「できている人」に光を当てて、共有して行くことを大切にしていきたいと思います。

四点目は、すべての事業で経営改善をすすめ、継続して発展できる経営を目指していくことです。昨年度は、コロナウイルス感染拡大などに

よって、生協への利用が高まりました。今年は、昨年利用してくれた組合員一人ひとりの継続した利用を目指すために、組合員さんとの関わりやつながりを大切にして、それぞれの事業部門の経営構造の改善をさらにすすめるとともに、人財育成や計画的な未来投資を実施していきたいと思います。

五点目は、地域との結びつきを強めさまざまな活動を通して、とくしま生協の役割発揮をさらにすすめていくことです。日頃のちょっとした組合員さんの変化に気づけるように気配り・目配りをさらにすすめていきたいと思います。なお、今年も消費者庁 新未来創造戦略本部のとりくみとして、新型コロナウイルス感染拡大に関連する消費行動研究に協力し組合員さんの協力も得ながらモニター活動を行うことも予定しています。ぜひ、ご協力をお願いします。

以上、5つのことを大事にし、より組合員の皆様のくらしに役立てるよう2021年度の事業を推進していきたいと思います。

以上、みなさんのご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。今年もよろしくお願いします



【新型コロナウイルス感染症対策功労賞】

とくしま生協理事長 大久保秀幸